

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン(ハーモニー)		
所在地	〒819-0041 福岡市西区拾六町1丁目21番11号 Tel:092-883-2223		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果確定日	平成30年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4071201513-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成30年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フラワーガーデンでは、2、3階に有料老人ホームと短期入所施設、1階にデイサービスとグループホームが中庭を囲むように併設しています。1階のグループホームやデイサービス横には小さな菜園があり、施設名のとおり、いつも季節感を感じながら心豊かに過ごせる様に季節の花々や野菜を育てています。近隣には保育園や団地があり共同で行事に取り組み楽しんでいます。毎年恒例の夏祭りでは、ボランティアや地域業者の協力の下、敷地内に店を出すことで、近隣住民の方々にも来て頂け、施設の事を知って頂く機会となったり触れ合いの場となっています。また、入居者様一人一人の個性を大切にしながら五感で感じて頂けるサービスの支援に努めており、出来るだけご本人様やご家族様の意向に沿ったケアを心がけながら日々皆様と接しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室、リビングともに十分な広さがあり、木目のフローリングで窓が大きく光も入り落ち着きのある事業所である。入居者が好みの衣服で笑顔で生活していた。介護計画に記載されている目標及び目標を達成するための支援がタブレットで確認でき、バイタル、排泄、入浴、特記事などもリアルタイムで記録し閲覧できる仕組みである。支援の実施忘れがなくなりサービスの質の向上につながると思われる。事業所のイベントである『夏祭り』は地域の方にも声かけし600名の参加があった。地道に開催していく中で地域に欠かせないイベントに成長していったのは地域とのつながりが毎年強くなっている表われである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内に展示している。介護に込めた思いを管理者、職員間で話し合い作成した理念を随時話し合い実践している。又、職員会議で理念を皆で読み上げ意識を高めている。	職員2名に聞き取りをおこなったが両名ともに理念を理解していた。『入居者が笑顔で生活できる』という理念を実践するために、最近行った運動会も入居者の個性・できることを考えたプログラムを作成し入居者の満足度を高めていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや運営推進会議を行い地域の方とつながりを大切にし又、地域の清掃作業など積極的に参加している。	事業所のイベントである『夏祭り』は地域の方にも声かけし600名の参加があった。地道に開催していく中で地域に欠かせないイベントに成長していったのは地域とのつながりが毎年強くなっている表われである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽会やその他の行事(特に夏祭り)は、地域の方に挨拶、案内、声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、参加の方に現状報告、活動内容など報告している。また、参加頂いた利用者様、ご家族の方の意見など日々のケアサービス向上に活かせる様努めている。	入居者の大半が運営推進会議に参加、『外出したい、大きい声でゆっくりしゃべって』などその場でご意見を伺いサービス向上に努めている。	運営推進会議は外部からの意見を伺い、地域の理解と支援を得るための機会である。民生委員・消防団・警察署員・関連する事業者など幅広く声かけをおこない、地域とのつながりをより強くするために運営推進会議を活性化することが重要である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご参加いただいた後など、介護上の疑問を相談している。	生活保護の入居者があり日常生活上の課題について行政の担当者に情報提供・相談対応をおこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修や会議の場などで話し合い確認している。事故に繋がる場合を除き、身体拘束は禁止している。	事業所の入り口は自動ドアである。事業所からの外出の際は自動で開かないが受付に職員がおり、要望があれば職員が同行し外出は可能である。身体拘束の実施例はなく、身体拘束委員会を3ヶ月に1度実施、マニュアルが整備され、内部研修も実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加したり会議の場で話し合い確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修に参加したり、職員会議などで勉強会をしている。	以前成年後見制度を利用した入居者があり、対応した職員が在籍しているため対象者があれば対応可能である。実践者研修のプログラムにも含まれており経験がない職員も知識を得ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に不安や疑問点がない様に十分に時間をかけて説明している。利用料の変更などがあった場合、変更の内容を説明し同意書の取り交わしを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換、又、来館時に会話の中での意見や要望など、その都度対応し、改善策を考えている。	相談・苦情・意見を受けた際は、専用のシートがあり、原因・対応・改善策が明確に整理され職員に対応結果が周知されている。毎年家族会を開催し御家族からの意見、要望を伺う機会とである。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に自分の意見や要望などを言えるように雰囲気作りに努め、改善、反映出来る様に心掛けている。	職員2名に聞き取りをおこなったが、看取りの外部研修に参加したいという要望を受け許可したり、介護福祉士の資格を取得したいという職員の要望を受け勤務時間内に講習を受講させたりなど、職員が要望を述べやすく、また極力実現するよう対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに職員は、自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は人事考課で評価し、昇給や昇進に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	学歴、経験、年齢など重視せず、福祉に対する思いや思いやり、本人のやる気を重視している。	未経験者も積極的に採用している。勤務時間内に介護の研修を行い仕事にストレスを感じないよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	会議や研修等で定期的に話し合いをし、職員間でも、その都度気がついた事は注意しあい改善している。	事業所見学の際、入居者の衣服が個人の好みを優先するように感じた。着せやすい衣服ではなく、好みを優先した支援を大切にしている。入居者への接遇を重要視しており、毎月目標を設定し、振り返りの文書を作成している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修をいつでも受けられる体制を確保している。また内部研修も研修委員会を中心に毎月行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や懇談会など積極的に参加し、交流を深め情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、性格、趣味など把握し、日々の様子観察を行い、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して日頃から笑顔で話しやすい環境づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に対応できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来ることは維持出来る様対応し、一緒に生活活動に取り組むように努める		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来苑されたり、電話などの会話、家族の手紙などを通して、状況を把握していただき共に支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも外出でき、面会時間も制限しない場所や関係が途切れないように努めている。	入居者の居室には家族との写真が多数飾られている。都市高速の出口に近く、駐車場も広いため家族も訪問しやすい。また、入居者の子ども・結婚写真・自宅や大切な場所の写真をリビングに掲示していた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話しレクを楽しんで頂ける様に声掛けや支援に努めている。また意思疎通が困難な方でも声掛けやスキンシップなどを行い、その場の雰囲気を楽しんで頂ける様務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取ったり、法事等にも出席している。いつでも何か困った事がありましたら相談して下さいという姿勢を持って接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め希望や要望を聞いて全職員が把握し又、家族の意見も取り入れ対応できるようにしている。	年齢別に生活歴を入居者、家族から聞き取り記入した施設独自のアセスメントシートを作成している。全職員が共有し入居者に合わせた支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでの暮らしの情報を収集して安心して楽しく過ごして頂ける様に、本人様に合わせた環境作りをしている。随時、意見を聞いて対応できる様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士による申し送りや伝達ノート、他の記録類にて把握し共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様からの希望や要望を考慮し、カンファレンスを行い、意見や要望が組み込まれるように工夫している。	入居者の担当職員がアセスメントを行い、問題点シートを作成しケアマネージャーと相談しながら6ヶ月に1回の介護計画の見直しを行い、入居者、家族の意見を取り入れ作成が行われている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録(介護記録、伝達ノート)や申し送り、会議での意見の話し合いなど情報共有を常に行い、日々の介護に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の希望に合わせ、通院や髪染め、外出や外泊の支援等も対応している。併設の事業施設との連携により機能訓練などの多様化したサービス等の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により避難訓練を行い、地域の方や隣接した保育園児との交流、中学生による体験学習などを受け入れ、理解や協力を得られる様にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を重視し、入居時に選択できるようにしている。月二回の定期往診、体調不良時の臨時往診などで、主治医・ご家族様・職員と連絡を密にしている。	入居者、家族が希望される病院に送迎を行い家族と同席し医師の意見を伺っている。定期往診は医師の診察が行われ看護師が家族に連絡、報告し記録している。緊急時は医師に状態を報告、指示があればすぐに対応できる体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での申し送りや伝達ノート、口頭、個人の医療記録ファイルなどで情報共有、異常の早期発見に努め必要時には他部署の看護職員にも協力を依頼している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に職員が交代でお見舞いに行き状態を把握できるよう入院先との情報交換を行っている。また、退院前には可能な限り家族を含め、医師からの説明を受ける様にし、受け入れ準備を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて入居者様の問題点やご家族様の意向を考慮しながら、対応策を話し合い、ご家族様の意向をその都度確認しながら、医師・訪問看護師との連携を図っている。	重度化、看取りについて家族に文章で説明、同意を得るようにしている。入居者の「そばにいたい」という家族の声に対応し宿泊も可能であり、主治医の指示を伺いながら支援に取り組んでいる。重度化、看取りの研修にも参加し職員全員に共有できるように朝礼や会議で報告をしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を職員全員が定期的に受講している。また、施設へ消防より講師を招いて講習会を開いている。緊急時のマニュアルを作成し、いつも実践出来るように勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年に2回避難訓練・呼集訓練を実施している。	火災訓練が行われ年に1回は入居者と一緒に訓練を行っている。職員の緊急連絡名簿で夜間に通達を行い実践で速やかに伝達できるように訓練が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し理解して対応している。また、個人情報保護法を厳守して安心して過ごして頂けるよう配慮している。	大きな声や方言、○○さんなど言葉に注意して対応している。入居者の目線に合わせ言葉かけを行いびっくりさせないように心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常生活を過ごして頂ける様に声掛け、働きかけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人にの希望に少しでも添える様に、生活リズム、レクなどの支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせた服装や本人の希望や好みを重視している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員また利用者様同士で楽しく会話をしながら準備をしたり、おいしく楽しく食事をして頂ける様に努めている。	入居者と一緒にワゴンを押して配膳準備をしたり入居者のお茶を入れてあげたりと自分で出来る事を促し支援している。職員が同じテーブルで入居者と会話をしながら楽しく食事をする努力をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量をチェック表にて把握し、執拗に応じて栄養剤を処方してもらい栄養状態が悪化しない様にしている。また入居者様の状態に応じて食事形態や用具を工夫して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアを行い入居者様にあった用具を使用している。また必要に応じて訪問歯科などを導入している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄のリズムを把握しさりげない声掛けにて誘導し、失敗がないよう見守りや声掛けを行っている。オムツの使用があってもトイレでの排泄を行っている。本人様がスムーズに排泄できる方法などを職員で話し合っている。	排泄チェック表を確認し入居者に声掛けトイレ誘導を行っている。衣服が汚れた際は周りに気づかれないように入居者を誘導し陰洗や入浴を行い清潔を保つ事ができている。トイレ誘導を行う事で布の下着を着用出来るよう自立へ向けた支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な運動や水分補給、腹部マッサージなどを行い、入居者様の状態に合わせて、かかりつけ医の指示下、下剤を選択しコントロールしている。又、落ち着いて排便できるよう羞恥心にも気をつけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に合わせ、ゆっくりリラックスして気分良く入って頂けるように支援をしている。季節に合わせた、バラ風呂等を行っている。	入浴は個浴で週に2回行われ清潔が保てるようにしている。特浴が必要な入居者は通所介護の浴室で入浴ができるようにしている。バラの季節はたくさんのバラを湯船に浮かべたり入浴剤で温泉気分を味わえ楽しく入浴ができる演出が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように1日の生活リズムを作り、日中の活動、リハビリ、体操等積極的に行っている。又、状態に合わせて、昼寝を取り入れている。体を休んで頂く際には、安楽な体位が保てるように工夫をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状をカードックスに貼付けし、用法・用量等すぐに確認出来るようにしている。服薬の際には、チェック表にサインし服薬確認、誤薬防止、服薬責任の所在に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花の世話や縫い物、お茶の準備などその方の力に応じた役割、楽しみごとを実施して頂き、張り合いのある日々を過ごせる様支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、気候の良い時期など定期的にドライブ等気分転換できるものを計画している。また、ご家族にも協力して頂きながら出かけられる様支援している。	建物の周りにはバラで囲まれ4月にはたくさんさんのバラが咲き、6月頃にはあじさいを見に出かけている。特別な場所には家族の協力で外出支援している。天気、気候がいい時には散歩に行く事を心がけ利用者の状態で車でドライブをしたり外出の機会を作り支援が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を持つことを希望されれば所持して頂き、必要に応じて使用して頂けるように支援して行く。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コミュニケーションを大切に、いつでも電話や手紙のやりとりができる様に支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーに季節の花を飾り、季節を感じて頂ける様に工夫している。行事の写真や壁の装飾を行い楽しんで頂いている。また中庭の景色でも季節を感じて頂いている。	調査時はハロウィンを演出し施設内はにぎやかな雰囲気である。入居者の声を聴き定期的に模様替えをしている。施設内の壁にはイベント時の写真や入居者の笑顔いっぱいの写真、若い頃の白黒写真、結婚式の写真など飾り懐かしさを楽しみ入居者が居心地の良い場所であるように工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内のソファーや座席の位置を工夫し、入居者様の気分に合わせてお好きな席でゆっくりと過ごして頂ける様に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様やご家族様の希望に応じて家具や道具を持ってきて頂き、お好きな様に配置して頂く事で落ち着いて過ごして頂ける様にしている。又、窓から外をご覧になられた時、外内苑に木や花を植えリラックスして頂ける様にしている。	入居者の部屋は家族と一緒に写真や入居者が作った作品など沢山飾りCDを持ち込み部屋で好きな音楽を聞く工夫をしている。入居当時からたくさんの写真を事業独自でアルバムを作りをして家族と一緒に楽しむことができるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた居室に内の配置、安全にも注意し工夫している。できる事、わかる事、したい事を活かして自立した生活が送れる様に細かな変更も行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン(リズム)		
所在地	〒819-0041 福岡市西区拾六町1丁目21番11号 TEL:092-883-2223		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果確定日	平成30年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4071201513-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成30年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フラワーガーデンでは、2、3階に有料老人ホームと短期入所施設、1階にデイサービスとグループホームが中庭を囲むように併設しています。1階のグループホームやデイサービス横には小さな菜園があり、施設名のとおり、いつも季節感を感じながら心豊かに過ごせる様に季節の花々や野菜を育てています。近隣には保育園や団地があり共同で行事に取り組み楽しんでます。毎年恒例の夏祭りでは、ボランティアや地域業者の協力の下、敷地内に店を出すことで、近隣住民の方々にも来て頂け、施設の事を知って頂く機会となったり触れ合いの場となっています。また、入居者様一人一人の個性を大切にしながら五感で感じて頂けるサービスの支援に努めており、出来るだけご本人様やご家族様の意向に沿ったケアを心がけながら日々皆様と接しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内に常に掲示している。 会議や朝礼時など職員間で唱和し、日々の業務の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方へ運営推進会議の参加を依頼し出席して頂いたり、地域の清掃作業など積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の音楽会や、その他の行事(夏祭りは特に)は、地域の方々への案内や声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催して、現状報告、活動内容を報告している。参加の利用者様やご家族様の質問やご意見を伺い、日々のケアサービスの参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後、介護上の問題点を相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修や外部研修、または会議の場にて確認している。事故に繋がる場合を除き、身体拘束を禁止している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加したり、会議などの場で話し合いや確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加したり、会議などの場で話し合いや確認を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に不安や疑問が無いように十分に時間をかけて説明している。利用料の変更などあった場合は、変更点を説明し、同意書の取り交わしを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換、来苑時に会話の中での意見やご要望など、その都度改善や対応が出来る様にしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や要望など言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、反映できるように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、年度毎に自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は、人事考課で評価を行い、昇給や昇進に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	学歴、経験、年齢など問わず、福祉に対する思いやりややる気を重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	会議や研修等定期的に話し合っている。職員間でもその都度気が付いた事は、注意しあって改善している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を受けられる体制を確保している。内部研修も研修委員、係を中心に毎月行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	懇談会など積極的に参加し交流を深め情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、性格、趣味など把握し、日々の様子観察などを通して安心して過ごして頂ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても常日頃より相談や話しやすい環境づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況やご家族の要望に対応できる様努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は維持出来る様対応し、共有できる事を見出し共に取り組んでいけるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話やご家族への手紙などで状況を把握して頂き、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも外出が出来、面会時間も制限せず馴染みの場所や関係が途切れないよう支援に努めている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話をしながらレクを楽しんで頂ける様支援に努めている。また、意思の疎通が困難な方でも同席して頂き、利用者同士の声掛け、スキンシップ等で一体感を得て頂くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的にも連絡を取ったり、法事なども出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め、希望や要望をお聞きし全職員が把握して、対応できる様にしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでの暮らしの情報を収集し、安心して楽しく過ごして頂ける様にご本人様にあった環境づくりに努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で端末による申し送りや伝達ノート、他の記録類にて現状の情報を把握し共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様からの希望や要望を考慮しカンファレンスを実施、必要に応じた意見や要望が組み込まれた介護計画を作成できるよう工夫している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や申し送り、会議での話し合いなど情報共有を常に行い日々の介護に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向や希望に合わせて、通院や髪染め、外出や外泊の支援なども対応している。併設の事業施設との連携により機能訓練など多様化したサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により避難訓練を行い、地域の方や隣接した保育園児との交流、中学生による体験学習などを受け入れ、理解や協力を得られる様にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を重視し、入居時に選択して頂ける様にしている。月2回の定期健診、体調不良時の臨時往診などで、主治医、ご家族様、職員との連絡を密にしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での申し送りや伝達ノート、個人の医療記録ファイルなどで情報共有、異常の発見に努め必要時には他部署の看護職にも依頼している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に職員がお見舞いに伺い、入院先との情報交換を行っている。また、退院前には可能な限りご家族と一緒に医師からの説明を受けるようにし、受け入れ準備を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月の会議にて入居者様の問題点や対応策を話し合い、ご家族様のご意向もその都度確認しながら、医師・看護師との連携を図っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防より施設へ講師を招き、救命救急講習会を開いて職員全員が受講している。また、緊急時のマニュアルを作成し実践できる様勉強会も開催している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力の下、年2回避難訓練・呼集訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し、理解して対応している。また、接遇マナーや個人情報保護法を厳守し安心して過ごして頂ける様に配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常を過ごして頂ける様に声掛けや自己決定できる様働きかけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望に少しでも添える様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人に合わせた服装や好みを尊重し支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員が会話をしながら食事の準備を行ったり、美味しく楽しく食事をして頂ける様会話を工夫している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は端末にて把握し、必要に応じて栄養剤を処方してもらい栄養状態が悪化しないようにしている。また、個々の状態状況に合わせ食事形態や用具を工夫し支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態にあった用具を準備し口腔ケアを行っている。また、必要に応じ訪問歯科の検診を受けて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	端末の排泄注意のチェック表にて排泄のリズムを把握し、失敗が無いよう定期的に声掛け、誘導を行っている。オムツの使用があっても日中は、トイレでの排泄を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、腹部マッサージを行い、入居者様の状態に合わせかかりつけ医の指示の下、下剤など使用し排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望やタイミングに合わせて気分よく入浴して頂ける様に支援している。また、季節によりバラ風呂なども楽しんで頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう一日の生活リズムを作り日中の活動、リハビリなど行っている。状況に応じて昼寝なども取り入れている。休まれる際には、安楽な姿勢で気持ち良く眠れる様工夫している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状をファイルや個人用ファイルに綴じ用法・用量などすぐに確認できる様にしている。服薬の際にはチェック表にサイン、端末に実施入力を行い、服薬確認、誤薬防止、服薬責任の所在に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり箱を折って頂いたりなど、その方の力に応じた役割を提供することで張り合いを感じて過ごして頂ける様に努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、気候の良い時期など定期的にドライブなどを計画している。また、ご家族様にもご協力頂きながら出かけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を持つことを希望されれば所持して頂き、必要に応じて使用して頂ける様、努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コミュニケーションを大切にし、いつでも電話や手紙のやり取りが出来る様支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに季節の花を飾ったり、季節ごとの行事の写真や、入居者様の昔の写真など壁に掲示して楽しんで頂いている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の気分に合わせ、ソファや座席など好きな位置でゆっくりと過ごして頂ける様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様やご家族様の希望に応じて家具や道具など持ってきていただき、使い慣れたものや好みのもので居心地よく過ごせる様にしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた居室内の配置、安全にも配慮し工夫している。自立した生活が送れる様にその都度細かな変更も行っている。		